

口永良部島

1 火山活動度レベル

火山活動度レベルは2(やや活発な火山活動)でした。

2 概況

火山性地震はやや多く、火山活動はやや活発な状態で経過しました。

3 噴煙活動の状況

監視カメラによる観測では新岳・古岳からの噴煙は観測されませんでした。

4 地震・微動活動の状況(図2)

- ・火山性地震の月回数は221回(7月:56回)と先月と比較して増加しました。
- ・火山性微動の月回数は2回(7月:0回)と少ない状態で経過しました。

5 熱観測(図3~7)

熱映像による観測では、熱領域や温度に大きな変化は見られませんでした。

6 地殻変動(図8)

GPS及び光波測距の繰り返し観測では、2005年9月まで新岳火口を中心に膨張傾向が見られましたが、2006年2月以降は見られなくなりました。

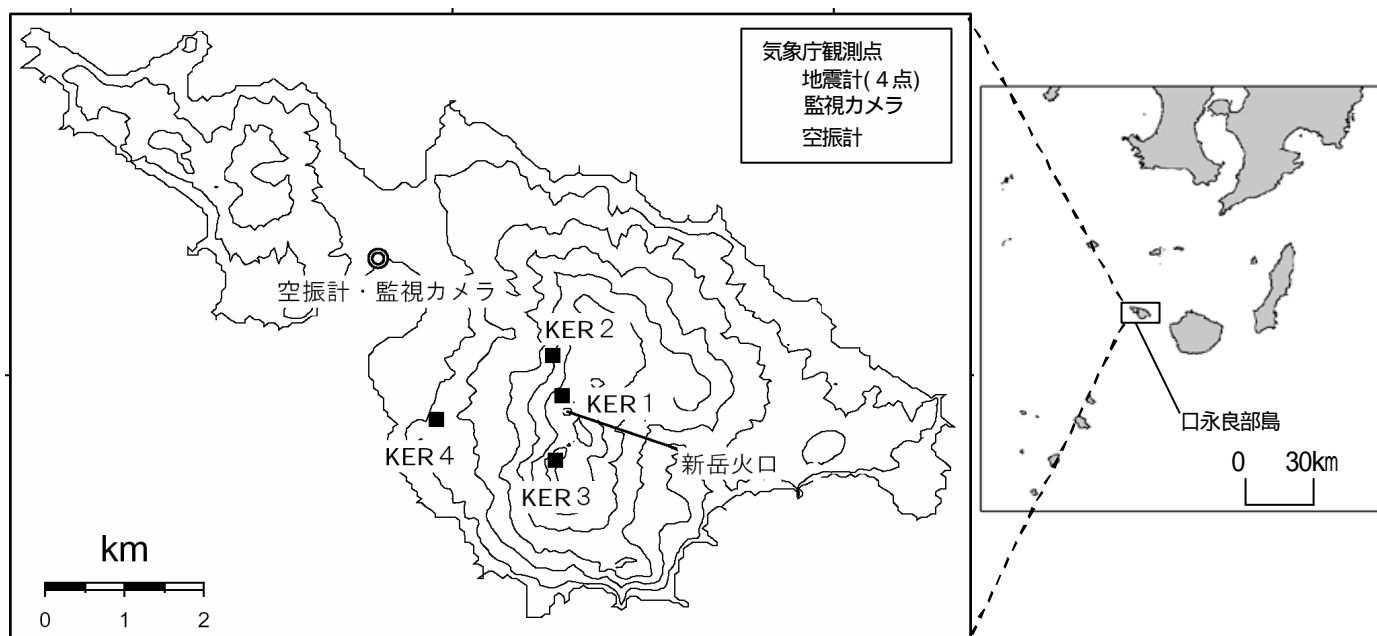
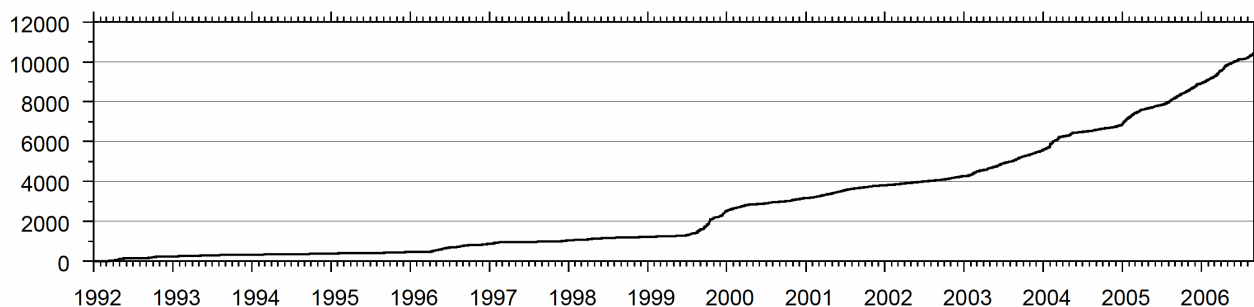


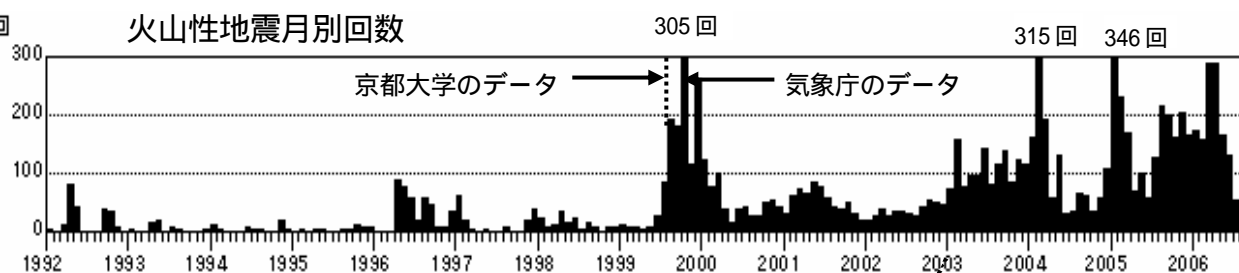
図1 観測点位置図

資料作成に当たっては、気象庁のデータ他、京都大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを使用しています。また、地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)。

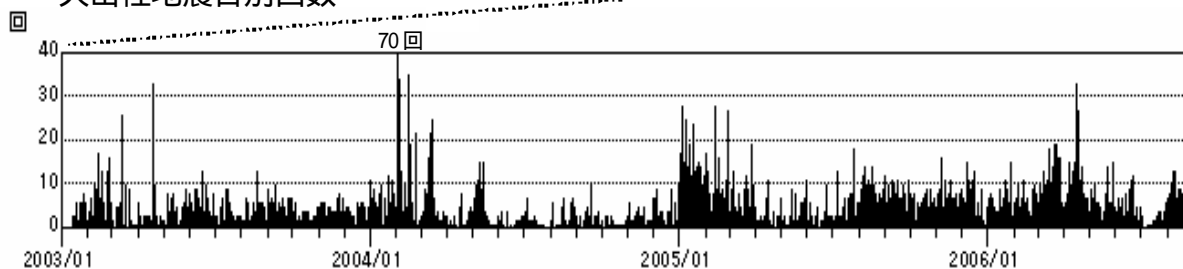
回 火山性地震日別積算回数



回 火山性地震月別回数



回 火山性地震日別回数



回 火山性微動日別回数

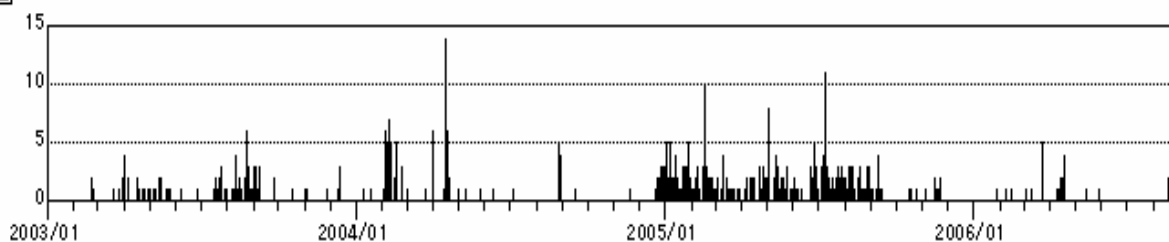


図2 火山活動経過図(1992年1月1日～2006年8月31日)

火山性地震は2005年7月以降やや多い状態が続いています。

火山性微動は、2004年12月以降やや多くなりましたが2005年9月から少ない状態で経過しています。

- ・ 1992年1月1日～1999年9月12日、2005年12月15～28日は京都大学が口永良部島に設置した観測点で計数したデータを使用しています。

口永良部島

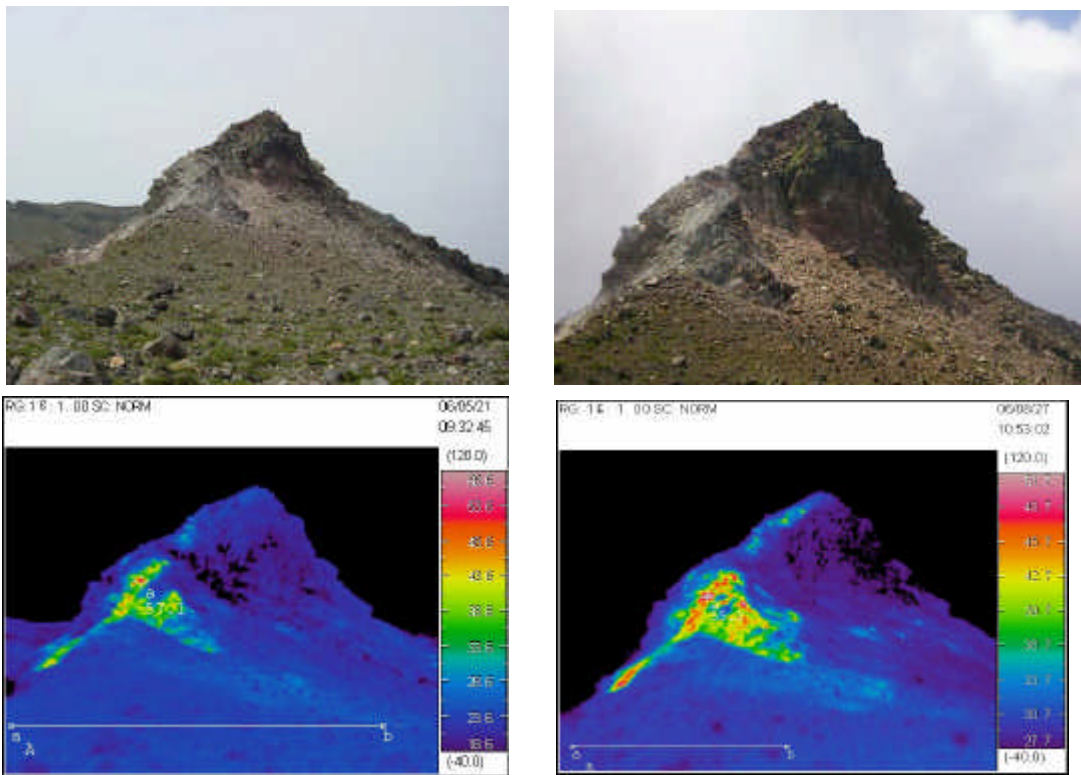


図 3 新岳火口西側の地熱地帯(定点 1 から撮影) 左:2006 年 5 月 21 日 右:2006 年 8 月 27 日
 噴気の状態に変化はありませんでした。
 熱領域や温度には特に変化はありませんでした。
 熱映像は図中の熱異常の見られない部分(図中の白線)で温度平均値を取り、表示レンジを調整しています。

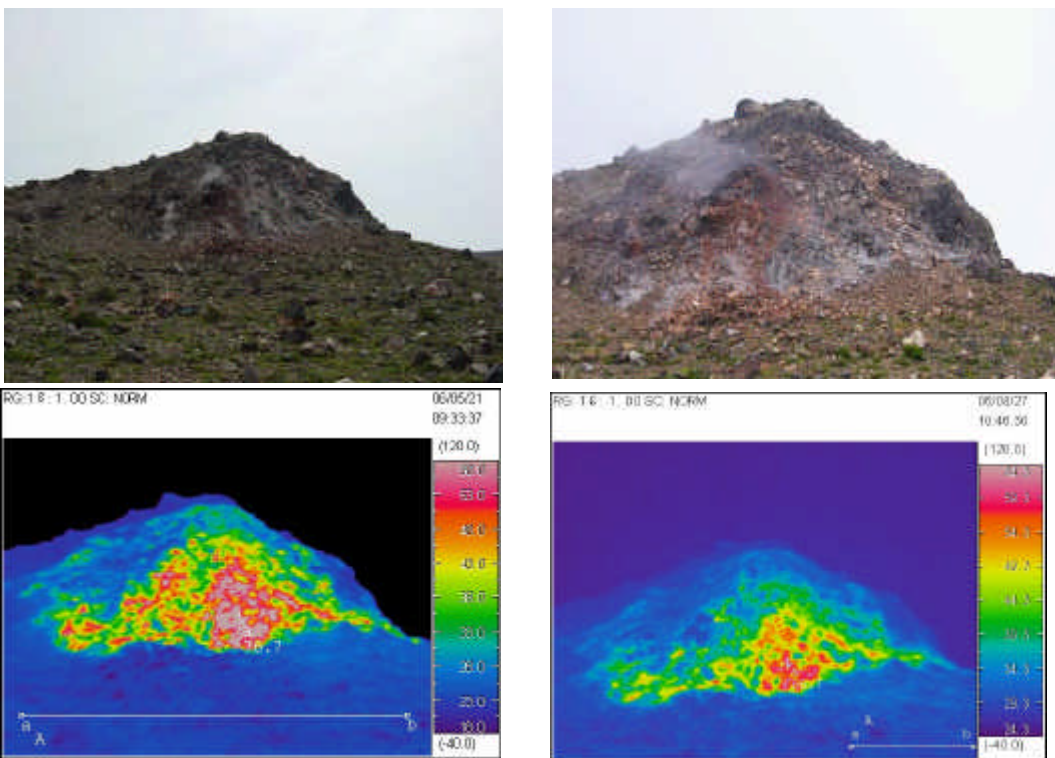


図 4 新岳火口西側の地熱地帯(定点 1 から撮影) 左:2006 年 5 月 21 日 右:2006 年 8 月 27 日
 噴気の状態に変化はありませんでした。
 熱領域や温度には特に変化はありませんでした。
 熱映像は図中の熱異常の見られない部分(図中の白線)で温度平均値を取り、表示レンジを調整しています。
 口永良部島

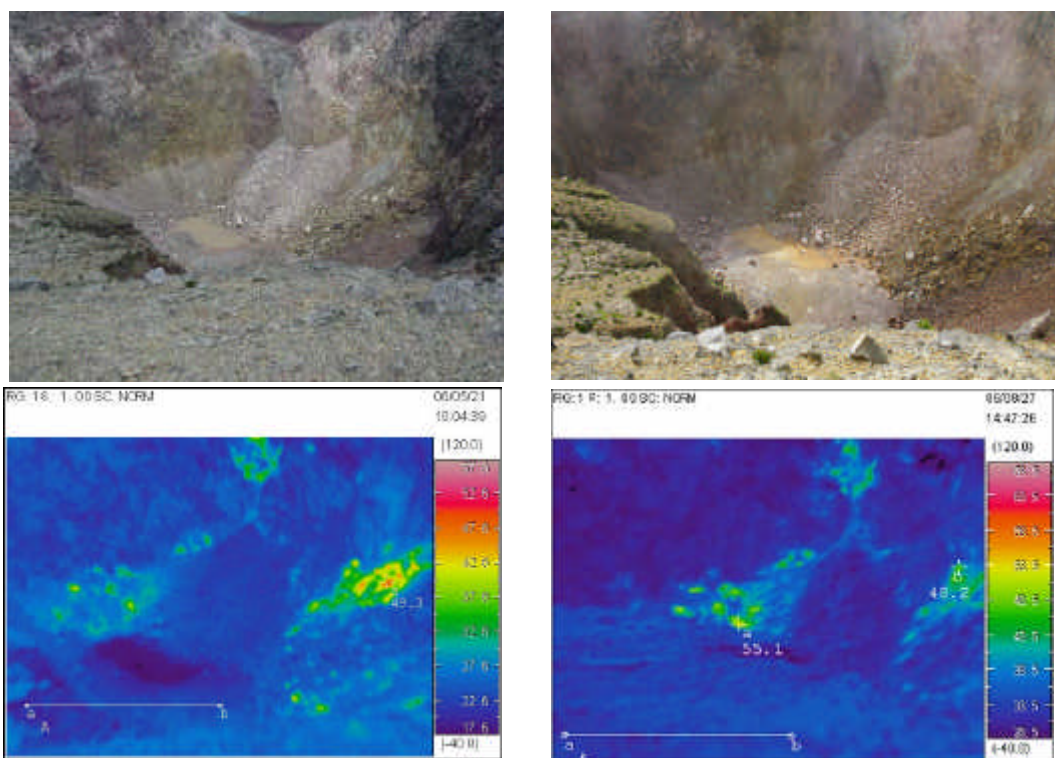


図5 新岳火口(定点2から撮影) 左:2006年5月21日 右:2006年8月27日
 噴気の状態に変化はありませんでした。
 熱領域や温度には特に変化はありませんでした。
 熱映像は図中の熱異常の見られない部分(図中の白線)で温度平均値を取り、表示レンジを調整しています。

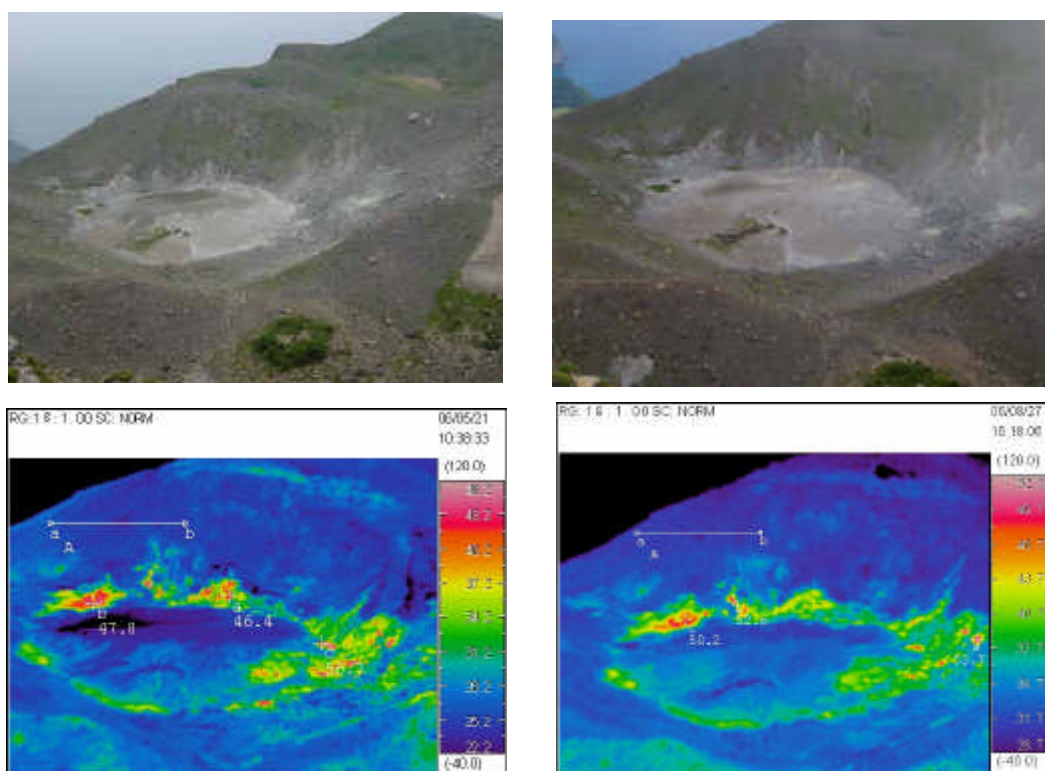


図6 古岳火口(定点3から撮影) 左:2006年5月21日 右:2006年8月27日
 噴気の状態に変化はありませんでした。
 熱領域や温度には特に変化はありませんでした。
 熱映像は図中の熱異常の見られない部分(図中の白線)で温度平均値を取り、表示レンジを調整しています。

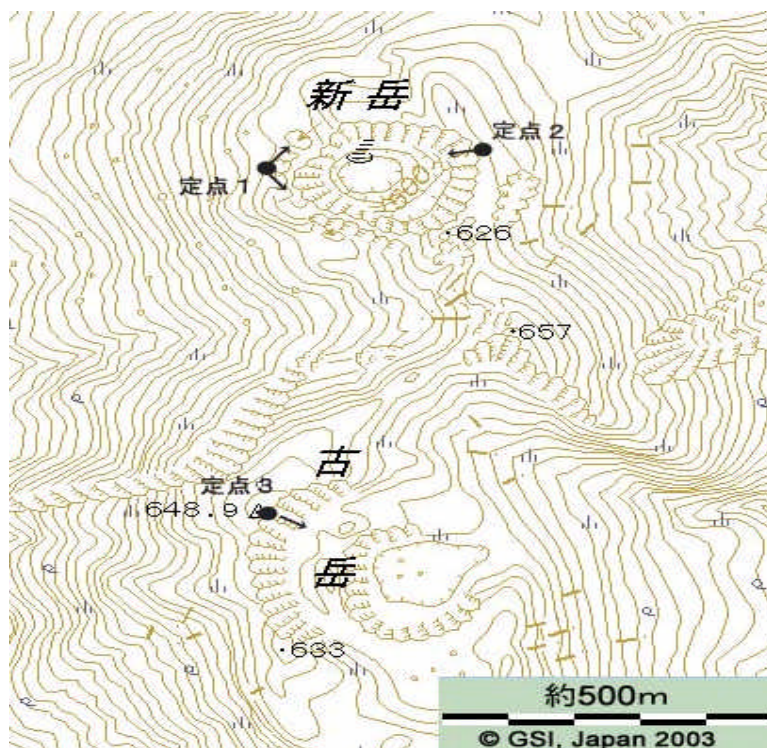


図7 熱映像観測定点位置
 : 定点 矢印: 観測方向

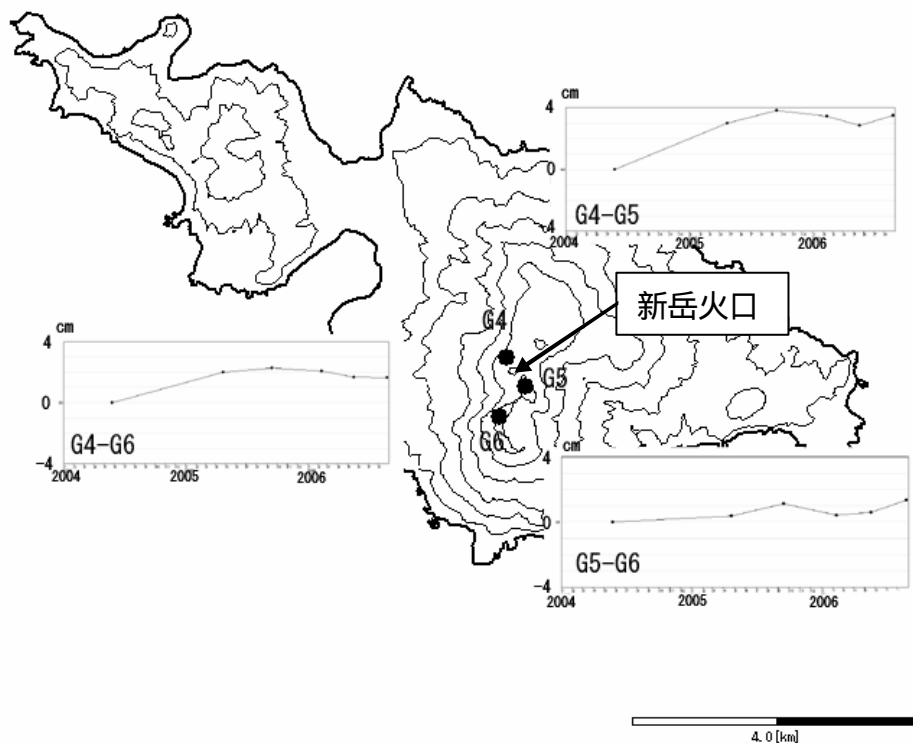


図8 GPS 繰り返し観測結果

各観測点間の基線長は、2005年9月までは新岳火口を中心に膨張傾向が見られていましたが、2006年2月以降はその傾向は見られなくなりました。